

1 研究開発課題

「峡北地域生え抜き」の科学技術人材の育成

～地域の「ハブ」としての役割を果たす中で～

2 研究開発の目的・目標

地域や小中学校との交流による地域の理数系教育の普及に加え、地域が有する科学技術の存在を学び、それらを教材化することで地域を理解し、地域の活性化を目指していく。また、これまでのSSHの実績を活かし、課題研究の深化を目指すと共に、校内外において連携層の拡大を目指し、生徒や卒業生、地域の企業や大学などとの連携を広げていく。

3 研究開発の概要

- ① 『地域への理数系教育のネットワーク拡大』
→ 地域交流の拡大に伴う連携方法の研究開発
- ② 『地域の理解と「研究マップ」の作成』
→ 課題研究などを通じて地域を知り、地域が有する科学技術の教材化研究
- ③ 『部活動におけるデータサイエンスの活用』
→ 本校の特色の1つである部活動に対して、データを収集し、チーム状況を把握した上で、試合で有利となる状況を分析
- ④ 『ICT等を利用した主体的な取組』
→ 教材の電子化による情報公開と成果物の共有化
- ⑤ 『客観的な評価方法と方略の実践』
→ クロス評価を用いて客観的な評価の実施

4 研究開発の実施規模

	1学年	2学年	3学年
文理科	全員	全員	全員
普通科	—	理系習熟クラスの希望者	2年生から継続

5 主なSSHの内容 ※詳細はHPの「SSHに関する取り組み」をご覧ください

1学年:アドバンス講座, 鹿児島科学研修(種子島・屋久島など), グループ課題研究 など

2学年:アドバンス講座, 関西科学研修(京都大学・理化学研究所など), グループ課題研究 など

3学年:企業見学, グループ課題研究 など

他にも, 全校サイエンス講演会, サイエンスレクチャー, 科学きらきら祭り, 出前講座, 韮崎高校探究交流会など

「**峡北地域生え抜き**」の科学技術人材の育成

～ 地域の「ハブ」としての役割を果たす中で～

《**目指す生徒像**》 地域や学校の更なる活性化のために

- ・ 特徴を把握し、多角的・多面的に思考することで問題解決を実現できる生徒
- ・ 自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・対話的に取り組み、粘り強く研究する生徒

地域の活性化

地域自然の教材化

峡北地域の
「研究マップ」
の作成

理数系教育の普及

地域の
「寺子屋」
としての取組

大 学 ・ 企 業

アドバンス講座
科学研修

学会・コンテストへ参加
課題研究
産学共同研究

スカラー

韭
高

総 探

SS科目

サイエンスレクチャー
科学きらきら祭り
出前講座

科学の知識を学ぶ機会の提供
理数系教育の普及

地 域 小 学 校 中 学 校

学校の活性化

連携層の拡大

- 校内連携
・ ユニット制の強化
- 県内外の連携
- 国際的な連携
- 卒業生との連携

特色ある学校づくり

- 部活動におけるデータサイエンスの活用

主体的な授業実践

- ICTを利用した授業改善

客観的な評価の運用

- 評価のフィードバック

Ⅲ期の新たな課題

- 地域の活性化
・ 地域の理解と「研究マップ」の作成
・ 理数系教育のネットワークの拡大
- 学校の活性化
・ 部活動とデータサイエンス
・ ICTを活用した主体的な授業
・ 客観的な評価方法の実践

Ⅱ期での主な成果

- 地域自然の教材化
- 地域の理数系教育の普及
- 全校体制の確立
- 授業改善と課題研究活動の活性化
- 客観的な評価方法の確立

